

主な検討課題（案）

1．文化芸術分野において契約の書面化が進まない理由

- ・ 資金調達の見通しや実施時期、企画内容等が流動的であるため、事前に書面で契約をしないことが慣習化。
- ・ 立場の弱い受注者側から契約の書面化や内容の確認、条件の改善等を要求しづらく、不利な内容でも契約を締結する受注者が多い現状。

2．契約書がないことによって生じる問題

- ・ 業務内容や報酬額、支払時期、キャンセルポリシー、著作権・肖像権・パブリシティ権等の扱い、安全管理の経費や責任の所在等が不明確。
- ・ 優越的地位の濫用や、ハラスメント等が生じやすい環境。
- ・ 報酬額の減少や活動機会の逸失、これまでの活動実績等を客観的に証明することができず、コロナ禍での各種支援事業等への申請断念。

3．わかりやすい契約書のひな型と解説の作成

- ・ 契約自由の原則だからこそ必要な契約内容の正確な理解
- ・ 契約内容を十分に理解した上でのリスク管理

4．適正な契約の書面化に向けた関係者の理解促進や作成支援

- ・ 適正な契約内容によるプロフェッショナルの自覚と確立
- ・ 適正な契約の書面化を推進する政策誘導

5．契約書の必要性や理解を深める広報啓発

- ・ セルフプロデュースできる時代だからこそ必要な契約意識の醸成
- ・ 適正な契約に基づく必要経費(事前準備含む)や価格転嫁への国民の理解
- ・ 実効性確保のための相談窓口の設置